

第6回若葉区地域福祉計画策定委員会議事要旨

1 日 時：平成18年2月25日(土)10時05分～12時5分

2 会 場：若葉保健福祉センター 3階会議室

3 出 席 者

策定委員：25名中16名出席

フォーラム委員：8名

事務局：9名

オブザーバー：4名

4 会議内容

(開 会)

事務局の開会宣告及び進め方の説明の後、委員長の議事進行により会議が進められた。

<議 題>

(1) 若葉区地域福祉計画案について

パブリックコメントの結果及び計画への反映

計画の推進について

事務局より説明の後、意見交換を行った。

<主な質疑・意見>

委員長：事務局の説明を受けて、何かご意見はないか？

委 員：私たちが今まで検討してきた中で、学校の子もたちのことが抜けていたのではないかと。これはやはり非常に大事なことはないか。

委員長：計画の推進にあたって、人材育成も含めて、子どもたちに対しての見守りとともに、子どもたちに地域の一員として活動していただきたい。

学校の先生を含め、子どもたちを社会の中で、地域の中で、「私たちのまちの子どもたち」という意識で育てていく雰囲気づくりが大切である。

委 員：パブリックコメントの中間とりまとめの資料を見て、市及び区計画と整合を図るためにも、県の計画(プロジェクトブレーメン等)を勉強する必要性を感じた。

また、花見川区のボランティアチケット制度について内容を知りたい。他区計画案の中で良い解決策があるので、他区計画も勉強する必要性を感じた。

委員長：他でやっているものでも、良いものは貪欲に取り入れる雰囲気づくりが大切である。

委 員：推進協議会の委員の中に、「子ども」に関する分野の方が入っていないので加えてほしい。これからは高齢者や団塊の世代の方の力はもちろん重要であるが、子どもたちの力をより使っていただきたい。

推進協議会の委員は20名以内とあるが、20名の枠にとらわれず、なるべく多く

のフォーラム委員に参加してもらいたい。最初の枠は広くとってほしい。会というものは回を重ねるごとに小規模になっていくものだ。

委員長：推進協議会が交流の場であれば、できるだけ多くの方に参加していただくということも可能だろうし、また、推進協議会が作業部会のような実働部隊というような組織づくりがあってもよいのではないかと思う。

委員：パブリックコメントで「優先順位の明示がない」とあるが、このことについて行政はどのように考えているのか、また、策定委員会としてどう考えるかは整理しておくべきだと思う。優先順位やスケジュールについて討議してほしい。

事務局：この計画は自助、共助を中心として、強制するものではないので、優先順位やスケジュールを行政で決定することはない。

現在、計画を具体化するために、計画にそった先駆的な事業に対して、各区の社協から補助金を出す方向で議会に予算案を提出している。

推進協議会で地域の実情に応じて、優先的事业を検討してもらうのもよいし、そういった事業に対して補助金を出す方向である。

委員長：計画の事業化や取り組みの把握は、推進協議会の重要な役割である。従って、多くのフォーラム委員が参加してくれればと思う。

パブリックコメントの意見にあるように、生活課題を持ち寄って、話をしたことが大切だと思う。微力だけど、無力ではないという思い、自分ができることを一つ一つ積上げていくことが大切である。

委員長：パブリックコメントの意見を反映しての修正点について、意見はあるか？
(発言する者なし)

委員長：パブリックコメントを反映しての修正を踏まえ、本計画(案)を決定してよいか？

賛成の方は挙手をお願いする。(挙手全員)

委員長：それでは、計画(案)を決定させていただく。なお、今後イラストや写真を入れて見やすくする等の微調整は、委員長、副委員長、場合によっては作業部会一任でいいか？(異議なく了承)

委員長：その他何か意見はないか？

フォーラム委員：提案であるが、推進協議会の委員に、パブリックコメントに素晴らしい意見を寄せてくれた人を加えてはどうか。

次は質問であるが、計画内の解決策を読むと、区民懇話会の意見と重複しているように思う。整合性について伺いたい。重複しているのであれば、無駄を省くべきではないか？

事務局：区民懇話会の状況は詳しくないので申し訳ないが、どちらかといえば行政に対しての課題や要望について検討しているものと認識している。確かに多少の重複はあると思うが、この計画は地域のことを自分達で解決していくためのものなので、違いはあるのではないか。

委員長：この計画は、住民一人ひとりがやれることをやるというもの。

車の両輪ではないが、公助の部分と地域でできることをどういうふうに組み合わせ

ていくのが大事である。

委員長：次に推進協議会の委員について何かご意見はあるか？

委員：20名と決めなくてよいのではないか。

委員長：推進協議会の役割は、計画の実働部隊ではなく、「計画の実現に向けて」の章に記載されていることだと思う。そこで、どの位の規模が適正なのかを考えなくてはいけない。

例えば、出身母体をできるだけ網羅的にするなどして、より多くの人に参加できるように推進協議会が呼びかけて、別に作業部会等を組織してもいいのではないか。

委員：実働部隊と推進協議会が別なのであれば、繋がりがある組織づくりをしないでいい。

委員：例えば、今のフォーラム形式と同様に、専門分野で部会をつくり、その中から中心的な組織をつくるようなピラミッド型にしてはどうか。

この計画を、障害者・高齢者・子ども別に要約したものをつくってはどうか。

委員：フォーラムに関わっていない人は、この計画をほとんど知らない。PR不足というより、一般市民の関心は低い。中心的な組織は20名でもいいが、推進協議会に属する人が多い方が計画の周知につながるのではないか。

委員：公募については、2名とあるが、今回他区のフォーラム委員公募において、抽選で落選した人がいると聞いた。せっかく手を挙げてくれた、やる気のある人が落選してはもったいないので、推進協議会の際はそのようなことがないように、2名と決めない方がよいのではないか。

委員のご意見の中に専門分野で部会をつくとあったが、普段から専門分野同士は集まる機会が多いので、計画の項目について興味のある人同士が集まった方が、計画も推進できるし、いろいろな意見が聞けると思う。

委員長：20名くらいの推進協議会が音頭をとって進めていくのか、60名から70名くらいの推進協議会のその中で、時には、専門分野で、時には項目で協議をしていく形がいいのか。6区との兼ね合いもあるので、事務局と相談して擦り合わせていきたい。

委員：公募については、ただ「地域福祉計画の推進協議会の委員を公募します」ではなく、皆が参加しやすいように、「委員になったらこのような活動をします」というような、具体的な公募の仕方を検討してほしい。

委員：推進協議会については、若葉区の計画には5つの仕組みがあるので、仕組みに沿った5つの部会をつくり、興味のある部会に入るといった形はどうか。

委員：参加はしたいが、その内容がよく分からずに躊躇する人がいる。「だれもが参加しやすい」を主眼にしてほしい。名称が「～協議会」だと参加しづらい。

フォーラム委員：大人の視点だけで、子どもが関わっていくというところが抜けているので、公募については、小、中、高、大学生まで声を掛けるべきではないか？

また、委員のカテゴリー枠の地域住民5名のうち、2名は公募で残り3名となっているが、3名は誰を想定しているのか？

事務局：具体的に記載している以外の方というように理解してほしいが、例えば専

業主婦などが考えられる。

委員長：再任を妨げないとあるが、逆に2期とか3期までにして、新しい方に参加していただき新陳代謝よくしたり、半分ずつ入れ替えていくのもいいのではないか。

そういった点も含めて事務局と協議していきたい。

委員長：学校関係の委員さんは、何かご意見はないか？

委員：計画(案)全体を通しての感想であるが、子どもの頃から福祉のこころを育むとあるように、学校も十分取り組んでいきたい。

< 議 題 >

(2) その他

今後のスケジュール等について

事務局より説明(特に意見なし)

委員長：この計画の製本ができたところに、フォーラム委員全員を対象に報告会を開催したいと考えている。その時に推進協議会への参加の意向などを聞ければと思っている。

開催の必要性や開催形式(合同フォーラム形式や地区フォーラム形式等)についてご意見を聞かせてほしい。

各委員：開催については全員賛成。(形式については特に意見なし)

委員長：会場、日程等については、決まりしだい連絡する。

< 閉会にあたっての区長あいさつ >

(委員の質問に対する区長からの補足説明)

若葉区長：計画案と区民懇話会との内容の重複についてであるが、若葉区に関しては、懇話会に出席している方全員に計画案を示し、目を通してもらっており、重複はないのでご理解いただきたい。

また、公募についてであるが、一般論として公募は若い人の参加が少ないため、そのこと踏まえて公募方法等を考えていきたい。

(閉 会)

事務局より、閉会宣告。

.....以上